

網膜対応検査-⑨両眼ビズスコープ試験; Binocular visuscope test (Cüppers test)

Binocular visuscope test 変法

参考) 山本裕子: 斜視・弱視の診断検査法 第2版 P101、
竹田千鶴子: 視能矯正マニュアル P201、平井淑江: 視能学 P311



目的

・微小な斜視の網膜対応の把握
・偏心固視がある場合の異常角の量的分析



片眼遮閉の検査じゃないし、常に中心窩に投影するので偏心固視でもできるね。

準備物 散瞳薬・固視標付 visuscope・マドックス正切尺と鏡又は小さい固視目標 (変法) 固視標付 visuscope (euthyscope) 2つ 分離方法 片眼 visuscope と鏡 (視標・マドックスの光源) 又は小さい固視目標 (変法) 両眼 visuscope (異形視標2つ) 検査方法 F 対 F

Binocular visuscope test
鏡を使用しない方法
山本裕子: 斜視・弱視の診断検査法 P101



Binocular visuscope test (Cüppers test)

マドックスの前5m又は1mに位置させ、
被検者の健眼が正切尺側になるように
横に向かせる又は健眼で任意の距離
の小さい固視目標の中心を確認させる

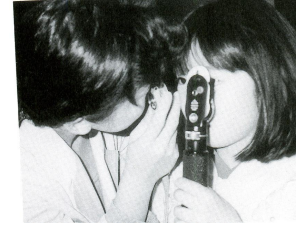


検者、被検者ともに斜視眼が正面に向いてやりやすいが、斜視・弱視の診断検査法 P101 では正切尺に對面し ET の偏位量が多い時は健眼にプリズム装用となっている。確かに正面向いても両眼分離出来る。左図

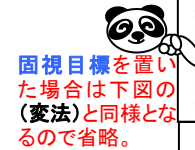
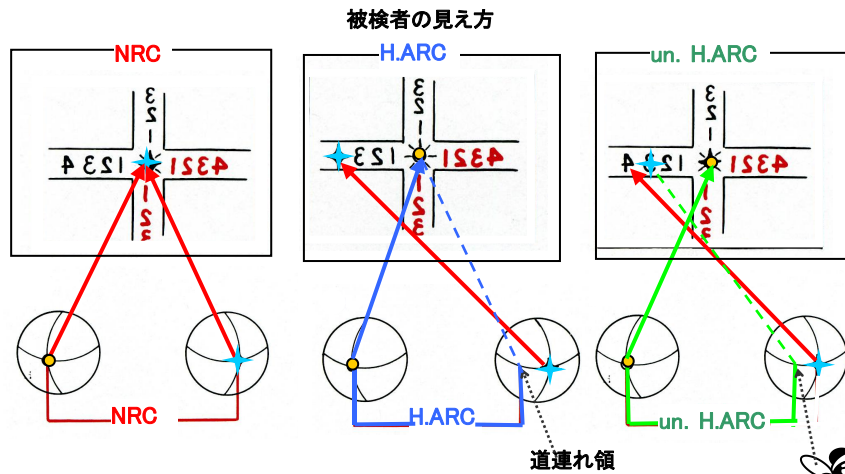
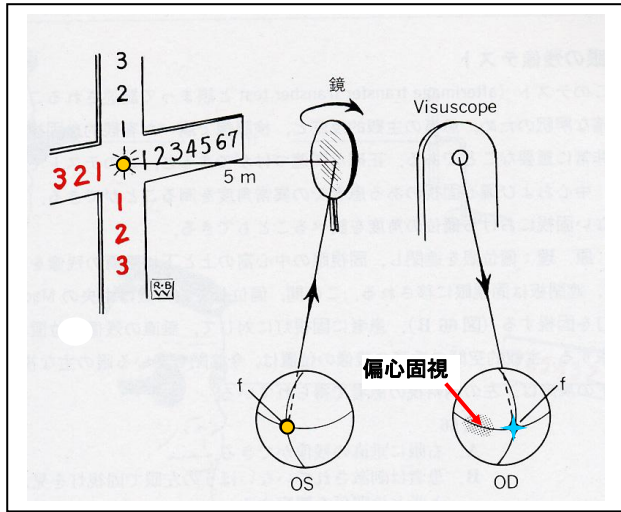
Binocular visuscope test 変法

被検者に健眼で、visuscope の同心円の固視標の中心を注視させる

Binocular visuscope test 変法
竹田千鶴子: 視能矯正マニュアル P201



Binocular visuscope (Cüppers) test による検査
Gunter K. VonNoorden: アトラス斜視 P101 図 65 に加筆と一部改変

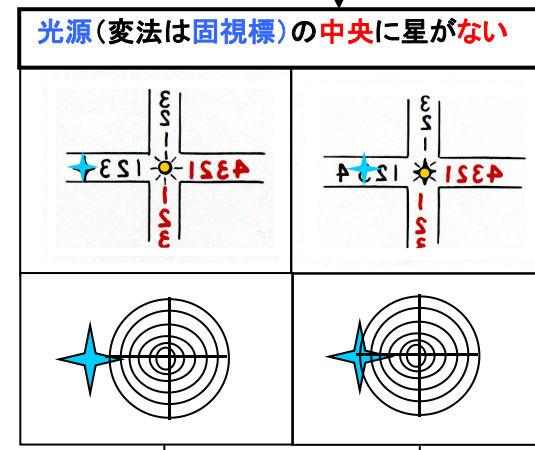
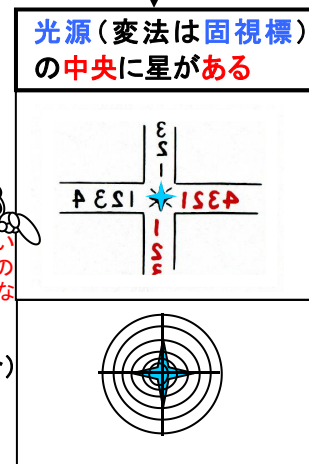


固視目標を置いた場合は下図の(変法)と同様となるので省略。

(変法の場合)



この場合の OA は 4° で SA は 1° 、異常角は 3° ということになるね。ややこしいね。



正切尺の光源(変法は固視標)のどの位置に視標(星など)が見えるか?

例)

光源より左側で正切尺の数字3に星がある!
(変法) 中心より左側で視標の同心円6円めに星がある!

YES 顕性の偏位量と一致するか? NO

正常対応
(正位・斜位
あらゆる斜視)

調和性異常対応
(斜視)

不(非)調和性異常対応
(斜視)

結果・記載例)
Binocular visuscope test
不調和性異常対応右眼内斜視
異常角 3°
(R-ET un. H. ARC)



自分の結果を書いておこう!

網膜上で光源(変法は固視標)と視標(星など)が重なるまでを動かし、対応点を探す

その位置が健眼の中心窩と共通の視方向を持つ網膜部位



長所

偏心固視がある場合でも異常角度の定量が可能である。



短所

・日常視とかけ離れている。
・強い抑制があると、患眼が検眼鏡の星の固視を妨害することがある。
・正切尺の数字が逆に写る。
・即答や返答が難しい。
・小児には理解しにくい。